（本研究は共同研究又は産学連携を目指す研究です）

本研究のフェーズは、■基礎　■基礎～臨床　□臨床　です

エピジェネティック作用薬を主とした分子標的予防法・治療法の探索と開発

① 共同研究・産学連携への意気込み

特任教授
曽和　義広

HDAC阻害剤に代表されるエピジェネティックス作用薬の作用機構の解明や複数のがん分子標的薬の創薬に携わった経験から、予防薬・治療薬の研究開発に取り組んでいます。

② 想定される連携先・移転先

大学、各種研究機関
および製薬をはじめとするヘルスケア企業全般

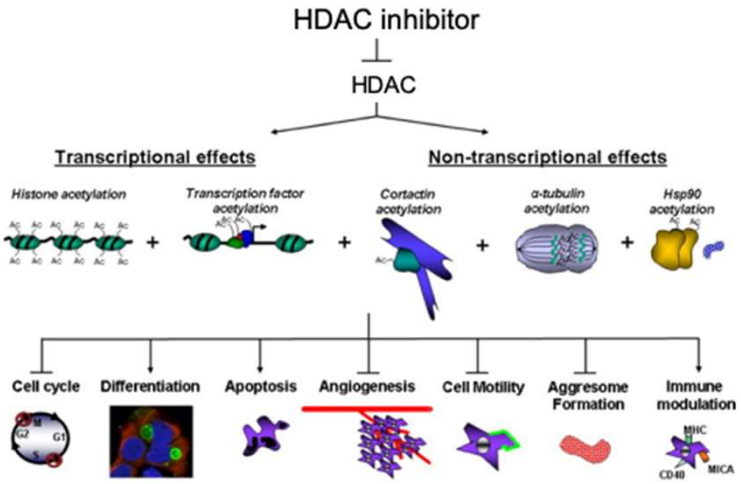
キーワード

エピジェネティック、HDAC阻害、分子標的、併用、スクリーニング、ドラッグリポジショニング

研究内容

HDAC阻害剤による抗腫瘍効果の分子機構としてp21遺伝子の発現誘導を世界で最初に報告して以来、HDAC阻害剤を中心に様々なエピジェネティック作用薬の作用機構の解明を行い、近年では、HDAC阻害剤の併用剤としての有益性を報告してまいりました。

HDAC阻害剤は遺伝子発現誘導だけでなく、多様な作用機序を有することから（右図）、がんだけでなく、様々な疾患に対しても有益であることが期待されています。



また、食物繊維から腸内細菌により産生され大腸に存在する酪酸、抗てんかん薬であるバルプロ酸ナトリウム、野菜に含まれるスルフォラファンにもHDAC阻害作用があることから、疾患予防の面からもHDAC阻害剤は注目されています。

京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

問合せ先
情報・研究支援課
TEL: 075-251-5168　FAX: 075-251-5275
E-mail: kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp